

カタクチイワシの解剖

1 はじめに

突然の時間割変更で1年生にカタクチイワシ(煮干し)の解剖の授業をすると伺い、参観させてもらうことになった。

2 実践内容

(1) 本時の初めに

観察に先立ち、先生から次のような話がありました。

私たちは、‘いのち’をいただいて生きています。今日は‘いのち’をいただいて観察させていただきます。そのことを理解して観察しましょう。楽しんで観察してもらいたいです。しかし、ふざけてはいけません。

カタクチイワシ(煮干し)は魚類であり、せきつい動物です。ヒトもせきつい動物ですから、体のつくりで共通するところも多いです。ヒトの体のつくりをイメージしながら魚の体のつくりを調べましょう。

さいは：魚類のえらの一部で、口から吸い込んだものを固形物(えさや小石)と水とに分離する器官
ワークシートに記載されている部位の他に、神経交差について説明があった。

(2) 観察方法

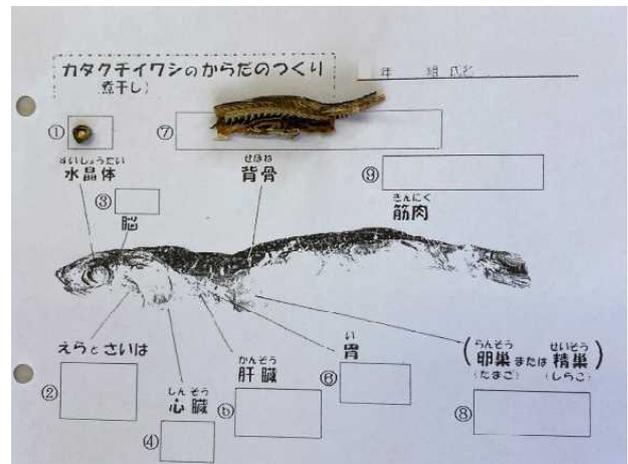
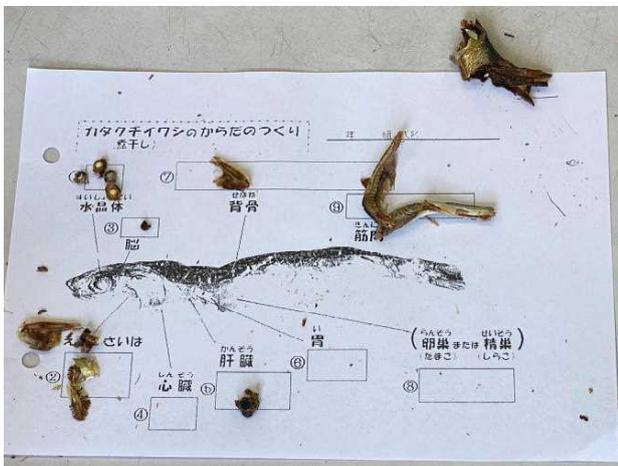
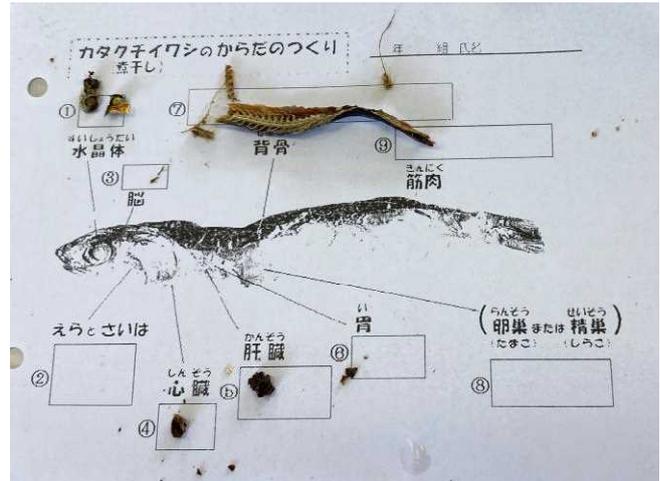
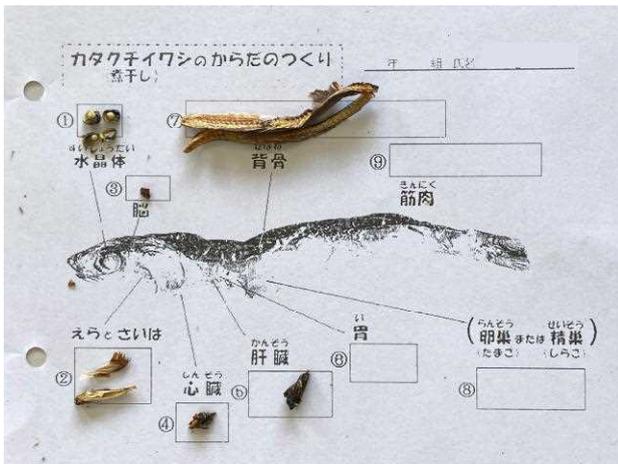
煮干し(カタクチイワシ)の観察です。爪楊枝を少し湿らして、煮干しを分解していきます。

最初は二人で一尾です。丁寧に解剖します。その後は、一人一尾で進めます。更に必要なら2尾目3尾目と使ってもいいです。

ワークシートの上に解剖した部位を並べます。



(3) 観察結果



3 授業を終えて

魚類の特徴を表しているもの、誰が解剖してもはっきりするものを観察のポイントとして示したい。

- 背骨と肋骨、‘えらぶた’と‘えら’
- 尾びれ
- 胸びれと腹びれ、

胸びれが手に、腹びれが足に進化していくことを説明して、それぞれ2枚あることを確認させたい。

ただし、個体により欠損している可能性がある。

その他のひれ(背びれ、尻びれ)も欠損している可能性がある。

- 水晶体
- ◇‘さいは’、心臓、肝臓、胃、卵巣、精巣は難しかった。

4 おわりに

私にとって、煮干しの解剖は意外性があり、面白かった。煮干しなら手軽に、しかも、一人ずつが解剖できるので、とても良いと思いました。